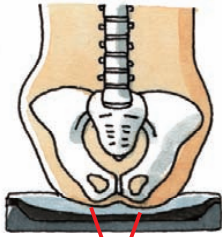


# J2 クッションを安全にご使用していただくために

## 座る位置 (坐骨の位置)

適切な坐骨の位置は流動体 (ジェイフロー) パッドの左右の中央部分です。

流動体パッドを上から見ると、半円形の縫い目があるので、それを目安に中央位置を決定します。



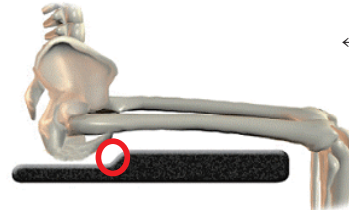
坐骨結節



坐骨位置

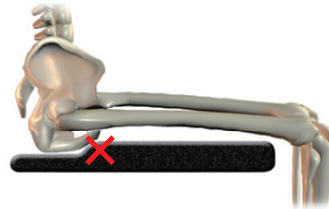


コントゥア・ベース  
前



### 適切な坐骨位置

坐骨とウェル (くぼみ部分) 前部との間には、坐骨を保持しながら保護するために適切な量の流動体があります。



### 危険な坐骨位置

坐骨が、ウェル (くぼみ部分) の浅い位置に当たる危険性があります。



## 重要！ 底付き防止のためのチェック方法

カバーを外した状態でクッションの流動体パッドの上に座ります。しばらく座っていた後、使用者に移動してもらい、クッションの底付きをチェックします。流動体パッドの一番へこんでいる部分 (坐骨や尾骨位置) に最低でも 1.5cm の流動体があれば底付きの心配はありません。

\*底付きチェックで流動体が 1.5 cm 以下の場合、クッションの使用を中止してください。

\*クッションに増量パッドを追加するか、既に増量されたクッションを使用する必要があります。

\*クッション長 (奥行き) 40.6cm と 45.7cm の J2 クッションは、全長 (奥行き) の違いに比例してウェル (くぼみ部分) の長さも異なります。

\*クッション長 45.7cm をベースとして改造した、クッション長 40.6cm でウェル (くぼみ部分) の長いクッションも用意されています。

## 座る位置 (クッション長)

- 最初に、腰と背もたれの間隙がないことを確認します。
- クッション長が適切か否かをチェックします。
- シートの奥まで確実に座った状態で、膝とクッション間の隙間の長さをチェックします。

腿と臀部に圧を分散するため、膝とクッション前部の間隔は、可能な限り小さいことが望まれます。

成人の場合、最大でも指 2 本分までとなります。隙間を可能な限り小さくすることで、安定した姿勢と最大の褥瘡予防効果が可能になります。

\*クッション長が適切でも、腿が浮いた状態だと圧の分散ができません。腿が浮かずにクッションで支持されるよう、フットプレートの高さを調整して下さい。腿が浮いた状態では、姿勢が崩れ、褥瘡予防効果が失われる原因となります。



最大でも指 2 本分までの間隔



広すぎる間隔 (足漕ぎ時などでは可)



腿が浮いている状態

### 確認方法：

膝頭を持って左右に揺すってみます。脚が左右に簡単に動くようであれば、浮いている状態です。

## 適切な流動パッドの取付

流動体パッドがクッションベースからずれていると褥瘡予防効果が減少するばかりか、底付きの危険性もあります。ベース側と流動体パッドそれぞれ 5 カ所のマジックテープをしっかりと合わせて留めてください。

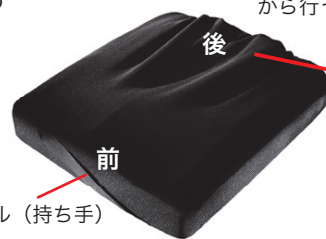


前部・後部で色分けされたマジックテープが、ベース部とパッド部にそれぞれ 5 カ所あります。

## カバーについて

必ず伸縮性のある純正のカバーを使用してください。

ハンドル (持ち手) のある側が前方です。カバーの取外しは、カバー後部から、取り付けは前部から行うと簡単です。



カバー後部にタックあり

カバーは、洗濯機で洗えます。

## 車いす設定のポイント

### 座布

弛んだ座布は、2つの理由からクッションの褥瘡予防効果を減少させます。ひとつは、悪い姿勢の助長。もうひとつは、クッションの変形です。弛んだ座布の上でのクッションのご使用は可能な限りおやめください。どうしても使用される場合は、座布の張りを調整して弛みを解消するか、ソリッドシート等の硬い板をクッションの下に敷いてご使用ください。

### アームレスト

使用者に合わせて、アームレスト (肘掛け) の高さを調整して下さい。体の左右への傾きによる姿勢の崩れを改善します。

### 背もたれ

弛んだ背布は、ずり落ち姿勢を誘引し、円背等の変形を助長するとともに後方からの十分な支持を提供できません。痛み、褥瘡、変形の要因となります。十分な支持を提供し、様々な問題の発生を避けるために、J2バック等の硬い背もたれの使用をお奨めします。後方から十分な支持を提供し、個人に合わせた角度の調整が可能です。

適切なバックにより、背面の圧を分散して保持するとともに、胸郭を伸展させて、安定性を提供



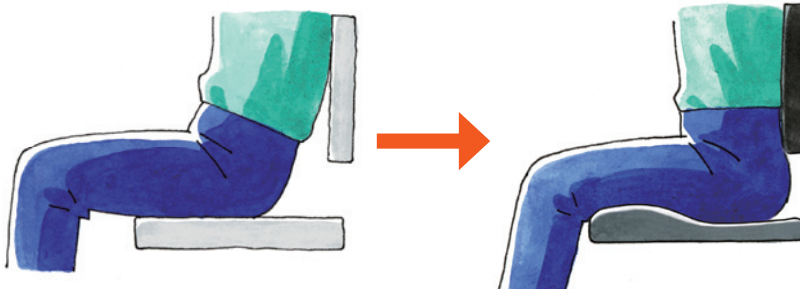
適切なクッションにより、ずり落ち防止と良い姿勢、褥瘡予防を提供

# J2 のクッションの効果 を最大限に得るために

## ベース (基部) の効果

ずり落ち防止と圧の分散!

クッションのベース後部が窪んだ形状は、臀部と腿に沿った形状となっています。この形状により圧を臀部と腿に分散し、車いすからのずり落ちや傾きなどの悪い姿勢を防止します。J2 クッションでは、ずり落ち防止のための「坐骨のブロック」を流動的に沈み込ませながら行います。

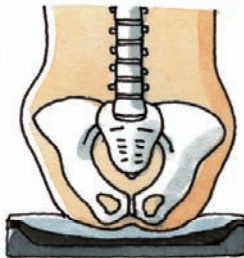
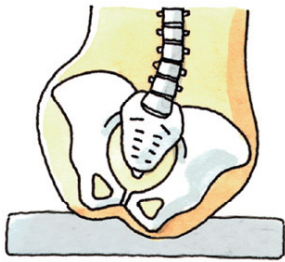


## 左右に分割されたパッド

安定性の提供!

流動体パッドは左右に分割されて坐骨を保護するようにデザインされています。この左右の分割により、片側に体が傾いても姿勢が崩れることを最小限に抑え、安定性を提供します。(ウレタンや空気のクッションと比べてみてください。)

片側への傾きのある方には、左右のバランスを調整することも可能です。



左右に分割された坐骨用の流動体パッド

## 超低反発の流動体パッド

世界最高の褥瘡予防効果!

流動体パッドはジェイフローと呼ばれる製法特許の超低反発素材です。無反発に近い状態をその特許素材と流動性により提供します。

無反発を実感!



カバーを外し、流動体パッドの坐骨が位置するあたりに、硬い物を置いて、クッションの無反発性を実感してください。硬い物の上にも座っても痛さを感じないのは、下からの反発力が無いために硬い物質が流動体の中に沈み込んでいるからです。保護すべき箇所を優しく包み込むことができる最強の褥瘡予防クッションなのです。

## 使用前の最終チェックポイント

Q: クッションカバーは前後逆ではありませんか?  
クッションが前後逆ではありませんか?

A: クッションの裏に「前↑」のシールが貼ってありますので確認して正しく設置してください。

Q: クッション前部が腿の裏側に十分にサポートしていますか?

A: 隙間がありすぎる場合は、長いクッションに変更します。評価時であれば、クッションを少し前に移動して必要な長さを確認します。

Q: フットプレートの高さは適切ですか?

A: フットプレートの高さの調整を行う。



Q: アームレストの高さは適切ですか?

A: アームレストの高さの調整を行う。

Q: 腰の後ろに隙間はありませんか?

A: シートの一番奥まで座り直してもらい、円背等にはバックで対応する。

Q: 坐骨は危険な位置にありますか?

A: クッションから降りてもらい坐骨位置の底付きチェックを行う。危険な位置であれば、適切なサイズのクッションに変更する。

\*坐骨部分が流動体パッド部の正しい位置にあるか、底付きはしていないか、パッドはベースに適切に取り付けられているかを最低でも一ヶ月に一度はチェックすることをお奨めします。

**ACCESS**  
international

JAY シーティング製品日本総代理店  
株式会社アクセスインターナショナル  
<http://www.accessint.ne.jp/>

■東京本社 〒176-0003 東京都練馬区羽沢3-40-7  
Tel: 03-5912-8611 (代) / Fax: 03-5912-8622  
営業時間: 平日 月曜日~金曜日 9:00am~6:00pm

■大阪営業所 〒590-0982 大阪府堺市堺区海山町4-163-11  
Tel: 072-223-1152 / Fax: 072-223-1154  
営業時間: 平日 月曜日~金曜日 9:00am~6:00pm